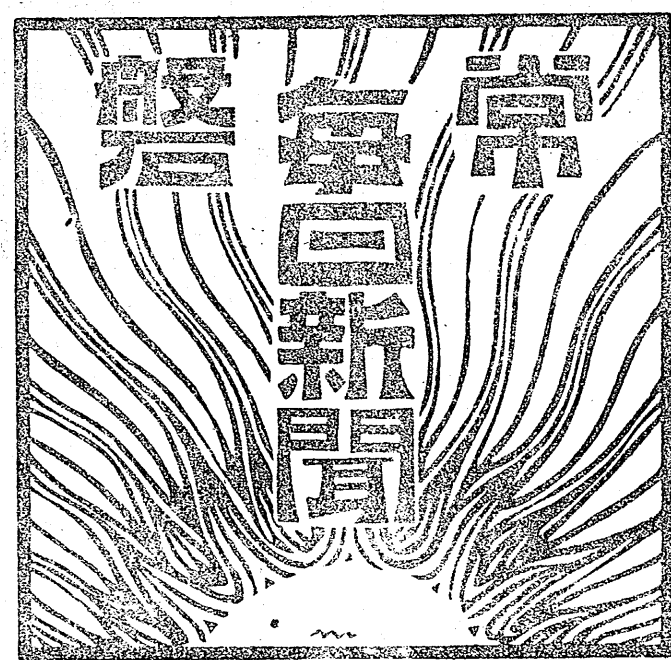


日刊 發行所 東京 市 本社下町香地 (電話六三〇番) 印刷所 常盤毎日印刷所



刊夕日五月十

定一部金貳圓 一ヶ月拾圓 三ヶ月貳拾圓 半年貳拾圓 一年貳拾圓 郵費別 印刷費別 電話六三〇番

近代文人の社交生活 (三) 武川重太郎 社交といふものが、單にフレンジ・ソレイションを意味するものならば、如何なる文人も悉く社交生活を有してゐるのであるが、廣い意味のソサイイテイとなれば、さて何うしたものか、文壇人が廣い意味の社交を有するものも有しないものも、當人がそれに興味を懸けるか否かで決定すること、傍から何かと批評を加へることも難かしいのであるが、それが文人そのもの、存在

を宣傳するやうな卑しい自利的なものでない以上、純粹の興味で社交生活を有することは、近代文人の生活内容に豊富にする意味から云つても、特種の人が非難するやうにそれほど悪しきことではなからう。然し乍らそれが如何に行きつけの喫茶店なりカフェエであらうと、四六時ちゆう(これは何時もといふ意味で)蟠居して、入り来る人を睥睨してゐるやうなアクの取れない野暮臭さは、如何に洋行歸りの文人であらうと、甚だ有難い圖ではな

い、もつと文人の社交生活なら文人らしく潤達に洒々落落と子供じみた競争意識や、黨派觀念は一應は捨て、自由な嶄新な空氣が溢はせられないものが、どうもこの新しい文人氣質にはどうでもいゝやうなことが何うでもなくないやうな變化窮屈さがあつて閉口である。然もそれが單なる一個人であるならば彼奴はケチな野郎だらけで濟みさうなところ、仲間が仲間でお互ひにさうした窮屈さを助成してゐるやうな傾向を見れば、愈よ以て溜らないと思ふよりほかない。(つづく)

玩具文具 ハーモニカ ゴムマリ 糸類書籍 森下商店 平町一丁目

肺病ロクマクの妙薬 ホシアンチツベルケン (五日分定價一圓八錢) 過去十有年幾多の人を救へる東洋一の此靈藥 肺を病む人 迷ふ勿れ 疑ふ勿れ 信賴せよ 平町三丁目 ホシチエーンストア 電話四二九番

標商錄登 吉田屋 染工場 (電話五五八番) 振替仙台五三二八番

醬油 味噌 鰹節 罐頭食品 鹽山崎合名社會 電話 營業部 一〇番 工場 二七番

看護婦派出所 平町南町 平看護婦會 電話三〇七番

名特 手入 拭供 吉田屋 徒弟入用 一十三四歳位ノ者四五名

腸胃 專門 院病村松 皮膚病 淋病 婦人病 專門 院病村松 電話七〇一

阿康藥店 靈藥ムテキ 切斷の苦しみなく... 代理店 平町古鍛冶町 (電話四四番) 菊田宮藥店 田宮藥店

甘くて 滋養分の多い アドローメ 平町十五丁目 發賣元 佐藤アドローメ 平驛構内賣 久保田パンヤ

町平 町廣 吉田眼科醫院 敷島のヒヨケ心を人とは、商品ほごに日や雨の覆 ヒヨケ、シート、テント 敷島ヒヨケ店 警城、町白銀町九

病院組織 内科 小兒科 外科 皮膚泌尿科 産婦人科 衛生試驗部 (理化學的検査) 主任醫學博士 新井寬治 渡部桂太郎 野秋善直 木村淳 吉本孝治 澤忠平 共濟會員 診察無料 磐城共濟病院 平町 (電話六四一番) 往診 何時にても致します 共濟會員 一日 金貳圓參拾錢也 賄付 一般患者 一日 金貳圓八拾錢也 賄付 看護婦募集す 牛鍋 御一人前金五十錢 豚 出前モ致シマス カフェエ 松ヶ岡 公園口 (電呼六五二、二三三) 有給女給さん入用

黨略に左右される 小名濱商港計畫

心配はないと原案執行と

伊東明府前途を樂觀

内務省に於て二十日頃開か
れる臨時港灣調査會に於て
本縣の小名濱港はいよいよ
同省計畫の第二種重要港灣
として指定を見る段取りと
なり、明年の豫算には當然
計上を見ることになつたが
此の前提として

本縣で

は藪に淺野
總一郎氏よりの百萬圓寄附
契約あり来る二十四、五日
頃臨時縣會を召集し同港實
現に關する縣の負擔並に支
出方法に就ての審議をなす
ことになつたが、此處に少
しく問題と見られるのは、
同港の重要商港計畫は

大体に

於て政友會
の努力によつて、此處まで
來たかの感があり、改選前
と違つて縣會の絶對多數を
占めた民政派が從來の行掛
かり上縣の諮問案に對し反
對を唱へるべく、或は否決
の一途に出るやも知れずと
いはれてゐる右に對し當の
伊東知事は

「總工費四百萬圓も要する
大築港が僅百萬圓内外の
縣費負擔で出来るのであ
るから此際若し、縣民の
大利益を無視して黨略的
態度に出る政黨がある
とすれば、斷然原案執行
の一途あるのみだ、心配
する處は少しもないさ」
云々

と相變らず強い處を見せて
ゐるが、事實、民政黨が黨
派の偏見から反對する場合
同派の石城郡選出の地元議
員が如何なる態度に出で
るかは亦注目される處であ
る

貸付け配當

石城郡各町村
長の借入申請

石城郡養蠶應急資金として
十四萬九千二百圓の貸付け
配當があつたので借り入れ
希望の各町村長は三日午前
十時から平町元郡役所會議
室に會合各町村に配當借
入れの申請を爲すこととな
つた

平獵友總會

射撃場新設申合

平獵友會では解禁日に先立
つて去る二日午後平獵樓上
に總會を開き會長に猪狩平
警察署長を推した後現在飯
野村谷川瀬のクレー射撃場
は狹隘なので他に適當な場
所を見つけて新設すること
を申合せた

功勞者

中隈氏轉任

三日付大分縣へ
折も折として小名濱港灣の功
勞者たる中隈土木課長は三
日付突如大分縣へ轉任する
こととなつた氏は去る大正

濱三郡 少年野球

いはらき新聞主催
來十七八兩日開催

いはらき新聞平支局主催に
かゝる第七回濱三郡少年野
球大會は愈々來る十七八の
兩日秋氣清爽の磐城中等學
校庭に於て開かるゝことな
つた此日こそ日頃の試練を
盡して天晴れ優勝の榮冠を
得んものと地方の小學選手
は

高鳴る

胸をおどら
して目下夫々盛んな練習振
を發揮してゐる殊に從來幾
度か優勝の光輝ある歴史を
有し且現在に於て尋常科の

十四年一月秋田縣土木課長
より轉任し今日まで滿二ヶ
年九ヶ月になる、小名濱築
港計畫が愈々具體化せんと
する時に當り同問題は中隈

白岩官林の茸狩りに

幽境川前の紅葉狩りに

九日は營林署の松たけ狩り

松ヶ岡公園の櫻もみちには
まだ間もあらうが朝の食卓
の珈琲から湯氣の立つのも
目につくやうな季節となつ
た、好晴の日曜日子供づれ
で一日を郊外におくるのも
面白く

青ずんだ

空にひび
く熱球の高鳴りを高月臺の
球報にきくのも樂みである
汽車便で送られた白岩の松
だけに山のほひをかきな
がら或は最近くばられた小
學生全集のグリの童話を
子供に讀み聞かせながら庭
には雨のやうに騒がしい

虫の音を

さく時漫
ろに秋の更けゆくのを感す
る、物の本によると時令は
野分、秋深し、初潮、初紅
葉、秋祭り、渡り鳥、初鳴



家庭欄

まゆ墨の選び方

眉墨には棒状、ねり状、紙
に延ばした物、粉、コルクを
焼いたものなど種々ありま
す

選手をも集めるとして決戦
は相當物すごいものと見ら
れてゐる

平町同好者の 菊花品評會

逸品五百を集め
來一日から十日間

平町の菊花愛好家により昨
年から設置された東京千秋
會の平支部では會員により
栽培され來れる菊花が素晴
らしい好成绩で名種も集め
られるに至つたので國家愛
護の種目に基づき支部發會式
を兼ね來月一日から十日頃
迄の會期で第一回菊花品評
會を開催すべく三日幹部會

縣議承認書

全部提出済

を聞き諸般の協議を遂げる
處あつたが會場は元公會堂
跡の空地五百餘坪を借受け
之れに當る豫定で出品は會
員のみにて三百點に達し其
外會員外のものも出品を許
す等なれば五百點位には達
するであらうと見込まれて
ゐるが、會長には會員にあ
らざるも最適任者として同
町榎田榮太郎氏を推し意義
ある品評會たらしめんと夫
れを準備中である

秋刀魚大漁

一擧十五萬尾を

なつてゐるが昨日鈴木辰
三郎氏の承諾書最後とし全
部提出済みとなつた

石城郡小名濱町縣立水産試
験場探検船磐城丸は目下北
海道釧路の南沖合百海里の
地點に於てサンマ漁報の調
査中であるが魚群薄く石城
郡沿岸に來游するのは二週
間後の見込で小名濱の沖合
で十萬尾江名町中ノ作の漁
船は十五萬尾のサンマを漁
獲した

幕が切つ ておどさ
れ山峽の磐越沿線には霜も
早からうから來る十六日の
日曜から十七日月曜日の神
嘗祭ころへかけては幽境川

失禮な豫測

今回の選舉で選出された
四十二名の議員中再選の
七名元議員の三名を除い
た三十二名今月下旬に招
集される縣會座を踏むの
は初舞臺であるからお上
りさんの喜劇珍談の種
をまくであらうと縣廳お
役人の話題に上つてゐる
即ち從來は縣議の登龍門
とも云ふべき郡會議員を
勤め政派の掛引や會議の
順序なども相當に經驗し
訓練されてゐたが既に郡
役所が廢止されて四ヶ年
を経過し精々町村會あた
りて相談的の會議をやつ
て來たものばかりである
から駄辯や珍問が續出し
て速記者泣せの大賑ひを
呈するであらうと觀られ
てゐる

前の紅葉も見頃とならうと
云ふものゝ林間に紅葉を焚
いて酒をあたくむる清興は
白岩の山に夏井の川べりに
かくして心ゆくまで試みら
るゝ事であらう

に出來ますし眉毛の衛生上
また美容上大變宜ろしいコ
ルクを焼き粉にし卵の白味
で練りまして紙にのばしか
わいてから用ひても宜ろし
い眉墨の良否を吟味するに
は使つてみて痒みを覺ね、
または毛の抜けるものは粗
悪のもので直ぐ廢めなけれ
ばなりません